

釧路市教育委員会 令和6年第16回9月定例会会議録

1 日時：令和6年9月27日（金）13時30分から15時00分まで

2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、小出美貴子委員、榎山彩子委員、大山稔彦委員

（事務局）

齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、本川教育指導参事、森学校教育部次長、大島総務課長、西崎施設計画主幹、小西教育政策主幹、齊藤総括指導主事、佐藤青少年育成センター所長、渡部給食担当主幹、及川北陽高校事務長、澤口生涯学習部次長、曽根美術館長、秋葉博物館長、竹内スポーツ課長、鈴木園長、北村阿寒生涯学習課長

4 議事録署名人 榎山委員 大山委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

（1）令和6年第4回釧路市議会9月定例会の議決結果について

（2）令和6年第4回釧路市議会9月定例会の審議内容について

（3）「くしろの読書週間～本とあそぼう！～」について

（4）一般社団法人釧路青年会議所との連携協定に基づく「2024ジョブカフェ釧路」の実施について

（5）小中連携の強化に向けた英語に関するアンケート結果について

（6）北陽高等学校における台北駐日経済文化代表処副代表及び札幌分処長による講話の実施について

（7）学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】報告事項

- (1) 令和6年第4回釧路市議会9月定例会の議決結果について
- (2) 令和6年第4回釧路市議会9月定例会の審議内容について

(大島総務課長)

報告事項1、令和6年第4回釧路市議会9月定例会の議決結果について報告する。

先月の教育委員会において承認いただいた2件の補正予算案及び議案第97号の「生涯学習部の所管する公の施設の指定管理者の指定の件」については、全て原案どおり可決された。また、釧路市報告第24号「令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書提出の件」、釧路市報告第26号から31号の新学校給食センターに係る「工事請負契約変更報告の件」及び釧路市報告第33・35号の物損事故に係る「専決処分報告の件」については、報告が完了したことを報告する。

続いて報告事項2、令和6年第4回釧路市議会9月定例会の審議内容について報告する。

令和6年第4回釧路市議会9月定例会の一般質問については、市民連合議員団、板谷昌慶議員より「第2次釧路市自殺対策計画について」、公明党議員団、松原慶子議員より「学校現場におけるLGBTQへの理解について」、創志会、大越拓也議員より「少子化対策と子育て支援の現状と未来について」、公明党議員団、松橋尚文議員より「スポーツ施設の維持管理について」、日本共産党議員団、村上和繁議員より「学びの多様化学校について」、自民市政クラブ、伊東尚悟議員より「スポーツ環境整備について」、創志会、松尾和仁議員より「開園50周年を迎える釧路市動物園及び公園の活用について」、日本共産党議員団、梅津則行議員より「4年間の市政評価及び平和事業について」、自民市政クラブ、草島守之議員より「国の特別天然記念物「阿寒湖のマリモ」について」ご質問をいただき、それぞれ答弁を行った。

尚、詳細についてはPDF資料5～26ページの質疑要旨のとおりとなる。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

- (3) 「くしろの読書週間～本とあそぼう！～」について

(森学校教育部次長)

報告事項3、「くしろの読書週間～本とあそぼう！～」について報告する。

来月10月27日（日）から11月9日（土）の期間は、古くから「読書週間」として、全国的に読書に関する様々なイベントが行われており、釧路市においても毎年、釧路市中央図書館が「としょかんフェスタ」と題して、催し物を開催している。

教育委員会では、令和4年度からこの全国的な読書週間の2週間に「くしろの読書週間」

を設定し、子どもたちが読書に慣れ親しみ、その楽しさを実感し、読書が習慣となるよう、全市一斉の読書ウィークへの参加を呼び掛けているところである。

具体的な取組としては、中央図書館の各種催し物のほか、「大人も子どももノーメディアデー～読書の楽しさ体験～」と題し、子どもたちはもとより、大人も巻き込みながら、ゲームやインターネット等のメディアに触れる時間のうち1日30分、読書や本に関する会話をすることに振り向けることを促す取組を実施する。

取組の周知方法として、学校から保護者への周知のほか、釧路市PTA連合会、釧路市連合町内会からご後援をいただき、それぞれの発行紙に取組の周知記事を掲載していただき、地域の皆様へ広くお知らせしたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(大山委員)

今回の実施要項を見ると、学校と一体になって進めていくというのがよくわかる。問題は学校を通して全ての保護者に周知していただくことと、学校において子ども達がこの週間にどのくらい本に親しんだのか等を評価してもらうことである。

(靱山委員)

すくすくメール等で周知と記載があるが、どういった内容で保護者に周知するのか。

(森学校教育部次長)

基本は1日のうち、30分間をテレビやゲームをせずに、読書時間や家族で本について語る時間を設けるよう保護者にお知らせをする形であり、市P連だよりや市のLINE等で周知を行う予定である。

(大山委員)

例えば、この週間に各学校でノーメディアデーを必ず実施してほしい等、具体的な内容があると取組みやすいのではないか。

(靱山委員)

家族で取組みやすくなる何かがあれば良いかと思う。具体例がなければ取組むのが難しいのではないかと感じた。

(本川教育指導参事)

この取組みについては、昨年度も「信頼」を通しての周知や、校長会でも各校長に対して周知啓発を行っている。先ほど森学校教育部次長より市のLINE等を通じてと話しがあったが、今年度も10月27日の週に合わせて次回の「信頼」に掲載するとともに、次回の校長会議で啓発をする予定である。中学校は学力テストが始まるので、ノーメディアデーが重なっているかはわからないが、この期間に合わせている学校もあるかと思うので、その点を確認しながら学校メール等を活用できる場所はお願いし、周知啓発をするよう改めて学校に求めている。

(山口委員)

先ほど大山委員からも話しがあったが、学校と一体になって進めるという部分がポイントだと思う。中でも保護者への周知や、教員から子どもたちへ直接指導することも重要になってくるので、校長会を通じてその点も指導徹底をお願いしたい。

(小出委員)

先ほど靱山委員からも話しがあったが、小学生だけでなく、未就学児とも連携する意味を含めて周知した方が良いのではと考えるが、小中学校に関係する人へ向けた周知になっているのか。市のLINE登録をしている人にも周知を行うということは、そこで未就学児がいる家庭にも周知されるということで良いか。

(森学校教育部次長)

市のLINEとなるので、市全体に周知されるということになる。

(岡部教育長)

学校から保護者宛にお便りやすくメールで周知されるということは、内容は学校ごとで変わるのか。

(本川教育指導参事)

この啓発チラシをPDFで送付するよう依頼する予定なので、保護者への伝わり方は変わらないと思われる。

(岡部教育長)

送るものは、現在手元にある教育委員会資料の内容を送付するのか。

(本川教育指導参事)

後ほど協議して、外部向けのチラシを作成し、各学校に送る予定である。教育委員会用に配布している資料は事務的な開催要項となっているので、さらにわかりやすいものを送付したいと考えている。

(岡部教育長)

この資料を学校に送付しても意味がないと思う。また学校に任せてしまうと学校ごとにバラつきが出る。バラつきが出て良いのかもしれないが、それであれば一度、指導主事にて内容を吸い上げて確認をしてほしい。中身のないことを行っても仕方がないので、そこは統一したわかりやすい周知文を教育委員会から各学校に送付し、各学校から保護者へ周知してもらうか、それぞれに特色あるものにしたいのであれば、中身を一度確認してほしい。

【公開案件】報告事項

- (4) 一般社団法人釧路青年会議所との連携協定に基づく「2024ジョブカフェ釧路」の実施について

(森学校教育部次長)

報告事項4、一般社団法人釧路青年会議所との連携協定に基づく「2024ジョブカフェ釧路」の実施について報告する。

この事業は、今年6月に中学1年生を対象に実施した「キャリアシンポジウム（ふるさと

釧路で働くということ)」に続き、今回は市内全ての中学2年生が、JC会員である地元企業に勤める社会人とオンラインでやりとりし、自らが将来働くことや地元企業のことなどに興味や関心を高め、生徒のキャリアアップを図ることがねらいである。

開催日は、9月26日（木）と10月3日（木）の2日間で、各学校は指定された日に、1つの企業20分枠の中で3つの企業とやりとりする。

当日、生徒はオンラインでやりとりする前に、企業の動画を視聴し、質問内容などについて考え、整理した上でオンライン上で各企業と質疑応答を中心としたワークショップを行う。

本事業を契機に、子どもたちが「何のために働くのか」自分の言葉で表現できるようになること、また、主体的に将来の生き方について考え、やがて訪れる進路の選択にあたり、自らの資質や能力を身に付けておくことができるよう、引き続きJCとの連携協定などを踏まえ、キャリア教育を進めていきたいと考えている。

◎この報告について、各委員からの発言はなし

【公開案件】報告事項

（5）小中連携の強化に向けた英語に関するアンケート結果について

（齊藤総括指導主事）

報告事項5、小中連携の強化に向けた英語に関するアンケート結果について報告する。

本アンケートは、令和6年5月に市内小学校ならびに義務教育学校の5年生と6年生、市内中学校1年生から3年生ならびに義務教育学校7年生から9年生、北陽高校1年生から3年生を対象に、オンラインで実施した。

本アンケートの目的としては、釧路市内の児童・生徒の英語に関する意識を調査し、実態を詳細に把握することで、外国語の授業改善の推進することである。

調査結果の概要について、第1回概要版を基に、質問ごとに説明させていただく。

全学校種共通項目である「気持ちに関する項目」について説明する。「英語の勉強は好き」、「英語の授業は楽しい」、「授業では英語を積極的に使っている」、「英語を使って、いろいろな人とコミュニケーションをしたい」、「将来、積極的に英語を使うような職業に就きたい」といった、英語の学習意欲に関する設問では、学年が上がるにつれ肯定的な回答が減少する傾向が見られている。

特に中学校1年生から2年生にかけて「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を含めた肯定的な回答の減少幅が大きく、「英語の勉強は好き」では、マイナス17.7%、「授業では英語を積極的に使っている」ではマイナス10.1%となっている。これらの要因としては、小学校での音声を中心としたコミュニケーションを土台とした学習が、中学校において学習内容が難しくなるにつれてコミュニケーションの機会が少なくなり、生徒の英語に対する学習意欲が減少しているものと推測している。

一方「英語の授業は楽しい」の項目において、小学校6年生と中学校1年生の間で肯定的

な回答の減少は見られず、「積極的に英語を使っている」の項目においては、中学校1年生の段階で増加が見られている。このように、小学校から中学校入学段階にかけて、英語の学習意欲が継続していることを踏まえ、中学校においては、今後も小学校でのコミュニケーションを土台とした指導方法を継続していけるよう指導・助言に努めていく。

次に技能に関する項目について説明する。「話すこと」に関する「英語でやり取りをすること」の設問をはじめ、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」に関する設問においても、気持ちに関する項目と同様、学年が上がるにつれ減少が見られ、特に中学校1年生から2年生にかけて肯定的な回答が大きく減少する傾向が見られている。

本アンケートの結果から「気持ちに関する項目」「技能に関する項目」とともに、中学校入学後の中学校1年生時の指導において、小学校との接続をより意識するとともに、中学校2年生以降もコミュニケーションを土台とする指導を継続することが重要であると考えている。

今後については、本アンケートの結果を踏まえ、平木外国語教育アドバイザーによる外国語巡回指導において、各中学校区における小・中相互の授業公開による連携を活発化させるとともに、コミュニケーションを中心とした授業が充実していくよう指導を行い、来年1月に実施予定の2回目のアンケートで改善が図られるよう、検証改善サイクルを基にした英語教育の充実に努めてまいりたいと考えている。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

現在、中学校で英語を担当している先生方が、平木外国語教育アドバイザー等からコミュニケーションを重視した授業をするように指導を受けているかと思うが、アンケート結果はこのような形になっている。中学校の英語担当の先生方は日頃どうしているかを考えながら授業をしているのか、直接英語の先生方から聞いてみたいという話しが教育委員の間で出ている。指導主事から状況等の説明は受けているが、英語の先生方の悩みも含めてどうしているかを考えながら授業に取り組んでいるのか、直接聞いてみる機会の設定は難しいと思っているが、検討してもらいたい。私たちが聞いて改善していくというものではないが、問題がどこにあるのかということを私たちも知りたいと思っている。

また齊藤総括指導主事から説明を受けたが、以前にも同じような説明や取組みを聞いた記憶があり、そこから何か良い変化が生まれたのか疑問である。中学校1年生時の指導において、小学校との接続を意識したとあるが、この点はさらに中学校側で意識していかなければならないと思う。このアンケートは5月のものであると思うが、1年生のときは高い意識を持っていたが、2年生から大幅に下がっているという結果から、小学校との接続をより重視していく必要があると感じる。

(齊藤総括指導主事)

平木外国語教育アドバイザーの今年度の取組みとして注目すべき点は、小中連携の工夫というところを項目としてあげており、必ず中学校区で授業を見せて、小学校の先生も必ず参加

して協議を行っているが、そこに新たに付け加えたのが、英語教育の小中連携はどういった工夫をしているのか、中学校区の中で明らかにするよう項目をあげている。私も全ての学校区の項目を確認したが、非常に効果的な取組みが見られたものの、一方で実際の悩みを共有できる環境になっていない等の課題も見られることから、この辺を突破口としながら、しっかりと平木外国語教育アドバイザーの助言をもらいつつ指導をしていかなければならないと考えている。

(山口委員)

英語の先生から直接聞いてみたいと思ったのは、特に中学校及び高校の英語の先生は、高校入試や大学受験に英語が受験教科として出てくるため、それがどうしても足枷となり、形から入らなければならない、コミュニケーション重視と言われてもどのように進めれば良いかがわからないという部分を隠れ蓑にされている状況があるのかもしれない。但し入試問題もコミュニケーションを重視した出題傾向が強くなっていきいているので、英語の先生としてはどのように認識して授業に取り組んでいるのか聞いてみたい。私たちが直接聞けなくても指導主事が英語の先生から直接話を聞いて、私たちに伝えてもらってもかまわないと思っているので検討していただきたい。

(岡部教育長)

平木外国語教育アドバイザーは全て把握している。授業改善に極めて熱心な先生もいれば、そうでない先生もいるので、どの先生と話しをするかで今の話は変わってくる。

(山口委員)

そうであれば平木外国語教育アドバイザーから話しを聞いた方が良いと思われるので、そういった機会を検討していただければと思う。

(齊藤総括指導主事)

承知した。

【公開案件】報告事項

(6) 北陽高等学校における台北駐日経済文化代表処副代表及び札幌分処長による講話の実施について

(及川北陽高校事務長)

報告事項6、北陽高等学校における台北駐日経済文化代表処副代表及び札幌分処長による講話の実施について報告する。

北陽高校では、昨日9月26日、台北駐日経済文化代表処の副代表である周学佑氏と、札幌分処長である粘信士氏をお招きし、台湾見学旅行を来月に控える2年次生を対象として、日本と台湾との親善交流などについて講話をいただいた。

この講話の実施に至った経過については、釧路日台親善協会及び釧路市議会日台友好促進議員連盟が周氏・粘氏を釧路にお招きして懇親会を開催することになったところ、お二方の来釧に合わせて、台北市文山区にある景文高級中学との学校交流や台湾見学旅行を実施して

いる北陽高校において講話をいただけるとご紹介をいただいたことにより、この貴重な機会が実現したものである。

講話の目的については、台湾見学旅行を控える2年次生が、国際交流や台湾を訪れる際に必要な知識・態度を備え、資質能力の育成・向上を図るとともに、台湾への興味関心をより深め、訪問への意識を更に高める機会とするものである。

講話においては、岡部教育長、齋藤学校教育部長をはじめ、釧路日台親善協会から2名、市議会日台友好促進議員連盟から11名のご臨席をいただき、2年次生徒たちによる盛大な手旗、拍手による歓迎の後、お二方からそれぞれご自身の体験を交えて、日本と台湾との友好に関する話しや、台湾の友達をたくさん作ってほしい、ぜひ台湾のおすすめグルメを教えてもらってほしい、英語の勉強をしてコミュニケーションをとって国際感覚を身につけてほしい等たくさんのアドバイスをいただいた。生徒たちも熱心にお二方の話しに聞き入っており、終了後には代表生徒からの謝辞、記念品の贈呈、記念撮影を行い、再びたくさんの手旗と拍手、花道によるお見送りをした。

今回の講話を通して、目前に迫った台湾見学旅行に向けて生徒たちが更に国際間の友好について理解を深め、訪台への意識を高めることができたものと考えているところである。今後も自主研修計画の仕上げや最終机上旅行の実施など、出発に向けて万全に準備を進めてまいりたいと考えている。

なお、景文高級中學との学校交流については、今回の見学旅行で齋藤学校教育部長が10月30日に予定している景文高級中學訪問時に同行し、1月までの台湾の秋学期中に北陽高校に来校が可能かどうか、また姉妹校締結時期を例えば来年11月の北陽高校台湾見学旅行の実施にあわせて行うか等、今後の交流事業の具体内容に関して、村木校長とともに景文高級中學の校長との協議を行うことを予定しており、その内容については11月の定例教育委員会で報告したい。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(岡部教育長)

今年は10月28日に出発し、景文高級中學に訪問するのが10月30日ということである。昨年が実質1回目ということになったが、帰ってきてからも双方の生徒がSNSで繋がっているということがあるようである。またやり取りするにあたり、英語を学ぶきっかけにもなっているようだ。国際理解教育を進めるための台湾への訪問は今のところ様々な効果を持っているように感じる。

(山口委員)

台湾から来た二人の講和は日本語だったのか。講和が各10分というのは短い印象を持ったが適切な時間であったのか。

(及川北陽高校事務長)

二方とも全て日本語で、生徒たちに向けて直接語り掛ける形で講和を実施していただいた。

この講和は10時50分から11時40分の1時間の授業時間の中で行うということで、生徒の移動時間等も含めると、講和については30分の時間を設け、二方には各10分ということで講和をいただいた。ただ、当日は熱のこもった話しもあり、10分以内に収まらなかった。

(山口委員)

台湾のお年寄り日本語が堪能な方が多いと聞くが、このお二方はこういった事業に関わっているから日本語を話せるのか、年代的に堪能な方なのかどちらなのだろうか。

(岡部教育長)

台北駐日経済文化代表処というのは、大使館的な役割で、札幌分処というのは領事館にあたる。日本でいうと外務省の方となるため日本語は堪能である。周氏は、前の前の札幌分処長であり、その際に私が、景文高級中學を当時の周氏にご紹介をいただき、北陽高校との間での見学旅行を手助けいただきながらつめていった経過がある。その後、コロナの流行により行けなくなった後に、昨年ようやく、周氏の後任である粘氏が実施に向けて後押しをしてくれたという流れがある。

(小出委員)

代表生徒謝辞も日本語だったのか。

(及川北陽高校事務長)

日本語であった。

(小出委員)

これから見学旅行に行くにあたって英語で謝辞を述べられたら良かったと思う。

(岡部教育長)

昨年見学旅行に行った2年生の謝辞は英語であり堪能であった。

(及川北陽高校事務長)

現地にて学校訪問をした際には英語での謝辞ということになるかと思うが、今回については準備中ということもあり日本語での謝辞となった。

【公開案件】報告事項

(7) 学校の現状について

(本川教育指導参事)

報告事項7、学校の現状について報告する。

市議会9月定例会の本会議や総務文教委員会の中でも学校教育に関わる議論がいくつかあった。特に学力問題については、「そろそろー5ポイントの学校を0にしないか」「義務教育を終了する中学校3年生には、進学するにしてもそうでなくても基礎学力をしっかりと身に付けさせることが重要である」「一人の子供も取り残されない教育を続けてほしい」等の指摘がなされたことから、改めて校長会議で各校長に指導と啓発をしたところである。

8月31日(土)、まなぼっと幣舞の多目的ホールで「釧路市子どもミーティング Let

‘s THINK&ACT」が開催された。今年度の討論テーマは「鉏路市の未来について～つくりあたらしい鉏路市を～」と題して、各中学校の代表と高校生、そこに市役所関係部署職員や連合町内会、文化団体連絡協議会の代表の方、そして急遽山口教育委員も加わり、4グループに分かれて討議を行った。

参加した中高生からは大人顔負けの意見が続出したが、この原動力には、日々の各教科の授業で身に付けた知識や話し合い活動でのスキル、キャリア教育で培った視点や考え方、わがまちの未来を真剣に考える郷土愛など、まさしく日頃の学習からうまれる「生きた真の学力」が発揮された一幕でもあったと感じた。

現在、学力向上プランの協議Ⅰを実施している。本日午前中までに17校が終わった。1校20分程度の時間ではあるが、教頭や学力担当教諭をMOOに呼び、説明を受けた後、私と学力担当指導主事から助言や場合によっては厳しい指摘や指導を行っている。中には、10月からの放課後学習の回数を増やすとともに、内容を充実させて保護者へのメールで案内し申し込みを募るように変更した学校や、朝学習を2学期以降、内容・回数ともに充実させるなど、新たな取組を計画している学校もあり、12月の標準学力検査のみならず、3月までに当該学年の学習事項をしっかりと身に付けさせて進級させるよう個別にアドバイスを行っているところである。

◎この説明について、各委員から次のとおり発言あり

(山口委員)

鉏路市子どもミーティングについて、前回の定例教育委員会の際にも話題になったが、前段テーマが教育委員会から示され、全校的な話し合いは難しいにしても、生徒会の代表者は、各学校の生徒会の事務局の中で少なくとも自分たちはどう考えるという話し合いがなされて、あの場で意見を述べて、周りの学校の子どもたちとの交流を踏まえて、各学校で持ち帰りまとめを行う。それを各学級におろして、全校的な話し合いがもたれると、さらに中学生が自分の考えを持ち、それを相手に伝え、相手の考えを受け止め、話し合いの中からいい方向性を見出すという今求められているものがこの場でも体现できたのかと思う。ぜひ来年度に向けて、点ではなく線でつながるような、それが面に広がるようなそういった取組みになるようにしてもらえたらと思う。

また、今回臨時で参加させていただいたグループに鉏路市観光振興室職員が参加しており、非常に良い発想の話題を提供してくれて、今回市役所の各セクションの方に入っていたのは良かったと思う。前回、小出委員からも話しがあったが、あの場にJ Cの方がいたらまた違った視点で良い話し合いを支えてもらえたのではと思うので、来年度はJ Cの方の参加も含めて、前向きに検討していただきたい。

(齊藤総括指導主事)

現在、参加した子どもたちの意見や、教職員の意見等をまとめているところである。その中で概略ではあるが良いと思ったものとして「新しい鉏路の魅力に気づくことができ、他校

の人と交流することで新しい魅力に気づけたり、釧路の改善した方が良いこと等の考えを自分自身で深めることができた」という中学生の意見があったり、高校生では「様々な意見が混ざり合い、新しい意見が出てくるところが非常に良く、勉強になった」という話を伺った。教員からは「各学校の総合的な学習の時間に活かせるのではないか」ということや「こういった取組みが教職員に情報として上手く伝わっていない部分があるのではないか。どのように周知を行っていくのか」という点が課題なのではないか」という指摘もあった。今回、子どもミーティングの良さや課題が見えてきたので、山口委員の話しも含めて改善点を検討していきたい。

(小出委員)

今回出席していないが感じたこととして、山口委員が話していたように、市役所職員が入り、とても良い視点で話されたということを聞いて、子どもたちからも充実した話し合いで色々な意見が出たとこちらにも書いてあり、学校に持ち帰るというのもすごく大事なことで、出席した子たちだけでなく全ての生徒たちに考えてもらうというのが大切だと思うが、ここで出た意見を大人も協力し、子どもたちと関わりながら、イベント等の形にして実現させるような取組みができれば、この子どもミーティングがふるさとキャリア教育の実践につながるようなものになり得るのではないかと感じた。今後の方向性や、何を目標に実施するかというテーマ付け、子どもミーティング自体をどういった方向性で行っていくのかという部分も含めて、楽しい事業だと思った。今後広がっていけば良いと思う。

(山口委員)

富良野の教育長が都市教委連の中で説明していたのが、富良野マルシェは、子どもたちの話し合いの中で出てきた意見を、大人が吸い上げて実現したとのことである。子どもミーティングでも話し合われた内容から実現可能なものを吸い上げ、大人がそれを実現することができれば良いと思う。もし自分たちが話し合った内容が形となって実現できたということがあれば、子ども達の達成感につながり、釧路市に対する思いや生き方に繋がっていく気がする。なので、そういった取組みができるのであればしていただきたいと思う。

(岡部教育長)

全国各地で子どもたちの声を吸い上げ、実行に移すという取組みが行われている。例えば山形県遊佐町の少年議会はまさにそのことであり、選挙で少年町長や少年議員が選ばれて、自分たちの町をどう変えていくかということを議論して実行に移している。何が違うかというと、遊佐町はそこに予算をつけている。予算が無ければ実行しようがなく、アイデアとしてこういったものがあつたと発信することしかできないが遊佐町は違う。子どもたちのアイデアを実行に移すための予算を毎年とっている。2人が話されたことを進めようとしたら、子どもミーティングよりも1歩進め、釧路市における予算や、事業化に向けた各課の協力体制が必要となってくる。そういったことまで考えて進めていかなければならないと思いながら聞いていた。段階を踏んでいかなければならないことから、子どもミーティングのままでは実行できないと思う。